

「ヘルペス・C型肝炎手記」 匿名希望 55歳

2014年6月8日

松本先生との出会い

平成26年5月55歳・会社員(男性)

○松本先生との出会いは、私が28歳の時でした…。

○会社員になって5年目。結婚2年目、長男も生まれて、父親としても、これからが一番大切な時。それまで、病気知らずの私でしたが、生まれて初めて「ヘルペス(帯状疱疹)」を患いました。医師(高槻市の大きな病院)から「持病の併発に注意するように」と言われておりましたが、その後も引き続き、暴飲暴食の不摂生な生活を続けておりました。そして、忘れもしないその年の夏。ひと月ほど、体がだるく、微熱が続き、てっきり風邪だとばかり思っておりましたが、炎天下のゴルフが引き金で「黄疸による緊急入院」となりました。その時の診断は「非A非B型の急性肝炎」でした。

幸い入院後すぐに、肝臓の異常を示す数値(GOT・GPT等)が下がりましたが、入院時の数値があまりにも高かったため、医師からは「ひとつ間違っていたら、命にかかわっていたかもしれない」ときつく言い渡されました。肝臓100日と言いますが、若く体力もあったことから、自宅療養も含め、約半分の養生で職場復帰がかないました。

(ここではまだ、松本先生との出会いはありません。まだまだ続きがあります…)

○当時はまだ、肝臓の研究が進んでおらず、「非A非B型」の特効薬は存在していませんでした。再発を防ぐための処方としては「強力ミノファージェンの点滴」が最も有効とのことで、退院後は、診療を会社の近くの病院に変え、昼休みを利用して治療にあたっておりました。当然、肝臓には「お酒は禁物」ということは、医師からも諭され、自分も懲りていたもので、しばらくは禁酒を守る生活を続けておりました。

○「喉元過ぎれば熱さ忘れる」とは、よく言ったもので、1年経過したころ、仕事も結構ハードでしたし、お酒もまた少しずつ飲むようになってい

たと思います。定期検査で、また肝臓の数値が上がり始めました。

—2度目の入院です。

最新の医療は日進月歩で、肝臓の研究もアメリカを中心に急速に発達しておりました。再検査をしたところ、今度は「C型肝炎」と診断されました。今でこそ、訴訟問題も発生するなどマスコミでも話題になり、ペグ・インターフェロン等の治療法も確立しつつあるようですが、当時は、相変わらず手の打ちようのない病気で、根本的な治療法はありませんでした。

○数値が下がり退院はしたものの、「病名ははっきりしたのに、完全に治癒できる治療法がない」というのは、本当に不安でした。「藁をもつかむ気持ち」とは、まさにあの頃の心境でした。その時、たまたま当時住んでいたマンションのお隣の奥様が、看護婦をしておられ「漢方薬の病院」に勤めておられました。それまで、漢方とは全く縁がありませんでしたが、まさに「藁をもつかむ」心境で、松本医院の門をくぐりました。そこで出会ったのが松本先生でした。

○「煎じ薬」と「飲み薬」での治療が始まりました。家内が、毎日欠かさず煎じてくれ、飲み薬と一緒に朝・晩、飲みます。

2週間ごとに診察を受け、月に一度、血液検査をして病状の経過をみる。その繰り返しを1年ほど続けたでしょうか。しかし、数値は不安定、高止まりです。やっぱり漢方もダメか…。

○あきらめそうになった時、神戸の親しい方が「漢方薬でヘンシコウという薬が肝臓に効くよ」と、貴重な薬を譲って頂きました。ただ、とても高価で、手に入りにくい薬でしたので、継続することができませんでした。そんな話を、ある時、松本先生にお話をしたところ…

「保険がきかず、高額になるけど、ヘンシコウの原料は「ゴウオウ・ユウタン」という漢方の高貴薬。私が調合(粉薬として)してあげるから、その治療法(煎じ薬と粉薬)に変えてみましようか」と言って頂いたのです。思いもよらない松本先生からのご提案。先生を信じようと決断しました。新しい薬での再チャレンジを、松本先生と二人三脚でスタートしたのです。

1年ほど経過した頃、改善はしているものの、あともう一步のところ、(松本先生が)思っておられた数値まで下がらなかったことから、ゴウオウとユウタンの配合を変えてみることにしたのです。あの時の喜びは忘れることができません。なんと、ピタッと数値が下げ止まったのです。発病してから長い月日が流れていましたが、初めて、薬が効いた実感を得ることが

できました。

○松本先生を信じ、おまかせして良かったと、つくづく感じました。それでも、疲れが出ると「また再発したのではないだろうか」と心配になり、血液検査をして、その結果を見てホッとするということを、何度も何度も繰り返しました。

○数年、その治療を続け、もうこれで大丈夫という時点で、勇気をもって、煎じ薬のみの治療に戻しました。そして今に至っています。今では、仕事からお酒を飲むことが多いのですが、GOT・GPTは全く正常値を保っております。

○精密検査では、依然C型ウイルスは存在しており完治には至っていないことから、会社の産業医は、毎回「最新の西洋医療によるC型肝炎治療(ペグ・インターフェロンなど複数の治療の併用)」を薦めます。しかし、やはり副作用の懸念もあり、何よりも、これまで信じてきた「松本先生の漢方治療」に全幅の信頼をおいていることから、産業医には「申し訳ありませんが、漢方で治しますので、お断りします」とキッパリ伝えています。

○最近、また改めて、松本先生への信頼が、増幅した事案がありました。実は、今年の初めに、急に左の耳が聞こえにくくなり、耳鳴りがするようになったのです。なかなか良くならず、仕事への影響もあるので、かねてから名医と聞き及んでいた有名な耳鼻咽喉科で検査をしていただきました。診断は「突発性難聴」いわゆる「メニエール病」でした。生まれて初めての経験でしたので、早く治したい一心で、飛び込んだのですが、そこで出た薬の内容と量を見てビックリ。ステロイドが一回8錠、一日4回。その他に8種類もの薬を飲むように指示がありました。また、その時の先生のコメントが何と恐ろしい。「この病気は、私が一番得意にしている、学界でも完治事例を、いくつも発表している。

任せておきなさい。この薬(ステロイド)は、長生きする万能の薬。出しておくから、全部飲むように」と…。そして、私が肝臓を漢方で治療していることを伝えると「この病気は、漢方では治らないから、私の処方箋を守るように」と…。

○私は、松本先生から「ステロイドは危険。絶対に服用したらダメだ。」と聞いていましたので、せっかく買った薬でしたが、全部ゴミ箱に捨て、その足で松本先生に相談しようと松本医院をたずねました。(実は、恥ずかしながら、松本先生が耳鼻咽喉科も手掛けておられることを知りませんでした)松本先生の診断は「ヘルペス」でした。さもありなんー 私の、

昨年末の不摂生が原因で、体が悲鳴をあげていたのです。

○あの時も「ヘルペス」を患って「肝炎」を併発しました。そして、また今一。人生、二度目のヘルペスです。それは「体に気をつけなさい」という啓示なのです。肝臓とは別に、耳の煎じ薬を、朝・夕、飲んでいきます。苦い薬です。睡眠を十分にとり、お酒も控え、規則正しい生活を心がけています。まだ、完治はしていませんが、だんだん良くなってきています。人間の持つ自然治癒力を信じて、根気よく、病気と向き合って、必ず治してみせます。

○松本先生との出会いがなければ、こんな元気な体になっていなかったと思います。やはり仕事に向かっていく気持ちになるのも健康な体があつてのこと。仕事にトコトンのめりこめたのも、先生の処方箋との二人三脚という信頼関係があつてこそだと、感謝しています。

○毎日欠かさず、薬を煎じてくれている妻が「長年、松本先生のお世話になっていることが、当たり前のように思っていたけれど、今回のことで改めて、松本先生の偉大さを感じ、これからも先生を信じていこうと思った」と、感謝しておりました。松本先生に、そして妻に、感謝の気持ちで一杯です。また、大事なことを教えて頂いたように思います。ありがとうございます。

(追伸)

今年はじめ、松本先生から「ぜひ、これまでのことを手紙にして欲しい」との依頼を受けました。日々の仕事にかまけ、なかなか筆をとれずにおりました。

連休初日の今日、家内から背中を押され、やっと、長年の感謝を文字にすることができました。ひとりでも多くの方が、松本先生に出会われ、健康な体を取り戻されるとともに、先生のファンが増えますことを、心からお祈りしております。

以上